

# リハハ エール

11  
2018

Y E L L

第13号

京都市高次脳機能障害者支援センターでは、より多くの方に、高次脳機能障害について知っていただけるように、普及啓発事業に取り組んでいます。

地域ガエル



高次脳機能障害 × 麴

こうじの世界 #2

<こうじの世界 内容>

以下の2エリアを設置!

いろいろ

- ・物販、情報展示コーナー



舞台 (ステージ)

- ・当事者・家族の体験談
- ・「THE GOLD☆STAR (ベーシストが高次脳機能障害のある方)」のバンド演奏等

<協力>



平成31年

1月26日(土) 正午~午後5時

ゼスト御池河原町広場

参加費無料

申込み不要

高次脳機能障害を知っていただき、支援の必要な方が早く支援につながるよう、古くから食文化を支え、現在も注目を集めている発酵食品

「麴 (こうじ)」の人気にあやかり、「こうじの世界 高次脳機能障害×麴」をテーマとしたフェアを、昨年度に引き続き、内容を充実して開催します! 皆様のご来場をお待ちしております。

市民による自治120年



地方独立行政法人  
京都市産業技術研究所

# 色々わかる!



京都市地域  
リハビリテーション  
推進センターの

# 障害者支援施設

当施設では、通常の提供プログラム（※）とは少し異なる施設行事も行っています。

（※）各種療法訓練、運動プログラム、学習プログラム等。詳細は前回のリハ\*エール第12号をご覧ください！

今回は…『さあ、出かけましょう～秋、京の街にくり出そう～』をテーマに、10月18日（木）に外出行事を実施しました！各々しおりを手に、寺町コースと京都ファミリーコースに分かれて出発！さて、どんな様子だったのでしょうか？



## 外出行事

### 目的

外出するのに援助が必要で、普段外出する機会が少ない利用者に季節を感じる機会を提供する。

また、支援員やセラピスト等が同行し、バスやエスカレータの乗降、店員さんとのやり取りの場面等で、“楽しみながら”の動作指導を行う。

### 効果

グループを作ってお互いの行きたいところを相談しながら決めることで、コミュニケーション能力が向上し、同じグループの人と歩調を合わせて歩いたり、楽しみながら行動することで、協調性を育む。

### 意識して取り組んでいること

普段から慣れ親しんだ職員相手ではなく、刺激の多い街中で、自分の知らない人と関わりながらうまくやり取りができるように、色々な経験をしていただく。

（例：目的地までのバス車内でのアナウンスや表示の確認、お店での会計時の精算を自分でしていただく等）

また、外出を通して新たな課題を見つけて、次のステップにつながるプログラムを提供できるように、利用者の様子を観察する。



## 利用者さんにインタビュー～

### 寺町コース

◆錦市場は人が多くて疲れましたが、とっても楽しかったです。喉が渇くくらいに試食しました（笑）。家族へのお土産も買えました。また参加したいです。【Eさん】

◆昔は電気屋さんが多かった寺町通りもすっかり変わっていたので驚きました。錦市場も久しぶりででした！普段は話をする機会のない職員さんとも、ゆっくり話せました。【Hさん】



### 京都ファミリーコース

◆施設から皆と歩いて行けて楽しかったです。ハロウィングッズがあったので、悩みに悩みましたがチョコとティッシュを買いました！【Nさん】

◆コーヒーを飲んだりドーナツを分けて食べたりしながら、皆で色々な話ができ楽しかったです。【Mさん】



## 京都市地域リハビリテーション推進センター 障害者支援施設 概要

- ◆利用対象者：18歳以上で高次脳機能障害を有する方
- ◆利用定員：入所又は通所で自立訓練（機能訓練25名、生活訓練15名。うち施設入所支援30名。短期入所も行っています。）
- ◆利用期間：個々の課題や目標に応じて、機能訓練は最長1年6か月、生活訓練は最長2年
- ◆お問合せ：京都市高次脳機能障害者支援センター TEL 075-823-1658

# 施設利用者の事例紹介

元利用者のTさんに聞きました!

数年前に脳出血で倒れたTさん。急性期や回復期の病院でリハビリをして退院しましたが、自宅生活はこれまでと違って困ることが多くなっていました。身体障害に加え、記憶障害や発動性の低下等があり、自分の身の回りのことや自営業の仕事もできず、何をするにも声かけ等の援助が必要な状態になりました。そのため、自立した日常生活を目指して病院に再入院。その後、当施設を利用することになりました。

今回は、当施設を利用していた1年半の様子や仕事探しを始めた現在の様子について、Tさんにインタビューをしました!

**Q. 入所生活はどうでしたか?これまでの病院生活や自宅生活との違いはありましたか?**

A. 入所が決まった時は、まだ自分のこともあんまりよく分かってなかったの、「俺、そんなに悪い状態なんやなあ。」って思いました(笑)。自分のことは自分ですという施設なので、やらないといけないことがいっぱいあって落ち込んでいる暇は無かったです。職員さんは皆、人間味あふれる対応(笑)をしてくれたのが有り難かったし、心強かったです。



いつも朗らかな  
Tさん  
画:利用者Sさん

**Q. 入所生活から自宅生活となり、通所に切り替わりましたが、大変だったことはありますか?**

A. 特に無いです。自宅から施設までの道を、何度か職員さんと一緒に練習したのですが、本当は「大変やなあ。別にこんなんでいいのに」って思っていました。でも実際は、色んな指摘をされました。どっちの方向に行ったら良いとか、乗り換え場所とか…。一緒に行ってもらえたので自信ができました。

**Q. 施設を利用されている間に、途中で就労の準備をし始めましたね。**

A. (就労関係の)相談先に職員さんが一緒に行って情報をやり取りしてくれたのは有り難かったです。そして(障害者職業センターで)職業訓練を2ヶ月間受けることになったのですが、施設に毎日通っていたので体力もあつたし、訓練でパソコンをしたり皆で会議みたいなものしたりと色々していたのでできましたよ。

**Q. 施設のプログラムで役に立ったものはありますか?**

A. 色んな場面で、色んな職員さんからメモをするように言われて練習していたのですが、スケジュールの記入やメモ書きの習慣をつけてもらえてとても良かったです。覚えやすくなったし、役に立ちました。今後仕事をする時も使えそうです。他には、施設の体育館等でやった運動はその効果について説明してもらっていたので、前向きになれました。小集団でやる新聞づくりやグループレクリエーションは、他の人との交流に役立つと思います。意見の多様性も知れたし、「色んな人がいるしなー」と納得できることも多くなりました。

**Q. 今は就職活動中ですか?**

A. 建設関連会社の事務の仕事を紹介されています。面接を受けるかどうかはまだ、悩んでいます。その間に、仕事もせずに家にいるのもなんなので、(就労移行支援)事業所には体験実習に行く予定です。家族も「(仕事探しを)頑張っ」と応援してくれています。

## 電動車椅子講習会



10月9日（火）に、平成30年度第1回電動車椅子講習会を開催し、16名の利用者、支援者の方々にご参加いただきました。

京都府警察中京警察署交通総務課の署員の方から、交通ルールや安全な利用について講義をいただき、実技講習では色々なタイプの電動車椅子に乗車し、専門職員等から操作説明を受けながら、体育館に設置したコース上で段差やスロープの通過、路上駐車車両の回避等の操作体験をしていただきました。

初めは緊張してこわごわ操作されていた方も、徐々にコツをつかみ上達し、「実際に体験できてよかった」「欲しい車椅子があった」等の感想も聞かれました。

次回の講習会は平成31年3月5日（火）に開催予定です。ぜひご参加下さい！

## 体力測定会&からだの相談会

からだの動きに障害がある方に、ご自身の体力を把握していただく機会として、9月25日（火）及び10月23日（火）に体力測定会&からだの相談会を開催し、23名の方に参加いただきました。

体力測定会では、参加者同士や職員と交流の場になり、「元気そうやね」と声を掛け合い、和やかに会話しながら筋力や歩行速度等を測定していただきました。初めて参加された方からは、「専門職と一緒になので不安なく自分の状態を知る機会となった」との感想をいただきました。また、毎年参加されている方からは、「測定結果の報告書は、前回の結果も書いてあって比較ができるので、機能維持や体力づくりに役立つ」と、結果報告書を楽しみにしていただいています。

からだの相談会では、骨密度や体脂肪率の測定のほか、相談コーナーで医師やリハビリ専門職、管理栄養士に個別に相談いただけるようにしており、手足の張りやその対処方法、装具の調整のこと、体脂肪を落とす食事や栄養の取り方等、気になっていることについて気軽に相談していただいています。

事業を通じて、日々の生活の振り返りや不安の解消、皆さんの健康維持や機能向上につながる良い機会になったのではないかと思います。



★編集後記★ こうじの世界、編集者の私も前回、家族と一緒に見に行きました。一番上の子ども当時はまだ保育園の年長でしたが、「高次脳機能障害」という名前を覚えてくれました。詳細は分からずとも、もう少し大きくなったときに、名前だけでなくその意味を理解してくれたらな、と思っています。

【リハ✿エール】第13号 2018年11月発行  
発行 京都市地域リハビリテーション推進センター  
〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30番地  
電話 075(823)1650(代表)  
FAX 075(842)1545  
Eメール [rehabili@city.kyoto.lg.jp](mailto:rehabili@city.kyoto.lg.jp)  
京都市印刷物 第304825号